

地域をフィールドに培う「人間力」で豊かなキャリアを切り開く



日本文理大学
人間力育成センター長
吉村充功



1 本学は大分県の県庁所在地である大分市の東部に位置する、工学部と経営経済学部を有する学生数約1,700人の地方私立大学であり、2017年には前身である大分工業大学の創立から50年を迎える。建学の精神は創立以来一貫して受け継がれる「産学一致」であり、地域産業の発展に貢献する人材育成を使命としてきた。

現在の教育の柱である「人間力の育成」は、「産学一致」のもと、急激に変化する産業界や地域社会のニーズを捉え、創立40周年となる2007年に教育理念を再編した際に掲げたもので、本学教育改革の拠り所となっている。

1 キャリア教育の考え方と支援体制

本学のキャリア教育は、学生たちの個性と学習歴の多様化に対応し、2003年に導入した。本学では「キャリア就職」と限定的に考えるのではなく、「キャリア」生き方そのものと定義し、「キャリア教育」とは、自分の人生全体を考え行動するための「生き方教育である」と位置づけている。そのため、進路指導の観点はもちろん、大卒者に求められる能力である「コミュニケーション能力」や「問題解決能力」なども、課外活動を含む大学教育全般で担うこととした。その支援組織として、同年に、入口側として人間力育成センターの前身となる「基礎学力支援センター」を、出口側として「進路開発センター」を設置した。

2 人間力育成センターにおけるキャリア教育

本学では「人間力」を「こころの力」「社会人基礎力」「職業能力」「専門能力」からなる力と定義している。専門能力を除く力を育成するうえで重要な役割を果たすが、2007年に設置した「人間力育成センター」である。

センターでは、全学共通の「社会参画」関連授業(1~2年・必修)の企画・運営を行っている(授業は学科教員が担任を兼ねて担当)。本科目はアカデミックスキルの修得、自己分析などの(狭義の)キャリア教育、自治体と連携した学部混成ワークショップなど、多様な組み合わせで構成している。また、近年重視しているのが「企業取材実習」である。これは、県内各企業に依頼し、全学生がいずれかの企業を訪問する。半日の研修では担当者説明と職場見学・取材を行っており、将来の仕事に対する具体的なイメージを早期につけることにつながっている。

また、センターには学生活動拠点を設置しており、自由に活動できる体制を整えている。ここでの活動は正課外活動化されており、ボランティア、里山保全、地域貢献プロジェクト活動など多様である。センターには常駐の若手教職員がおり、いつでも相談、指導を受けることができる。本センターの存在は、学生の居場所づくりとしても重要で、正課科目と連動したプログラムによって、「人間力」の幅を広げている。

3 進路開発センターにおける就職サポート

進路開発センターは、行き先開拓だけでなく、学生にキャリアをつけるため、さまざまな就職サポートプログラムや個別指導を展開している。各自のキャリアプランに合わせ、一般常識SPI・論文対策の各種講座、ビジネス・論作文対策の各種講座、ビジネスの高い資格や公務員試験の対策講座などを正課内外で実施している。

また、近年では地域企業と連携したインターンシップにも力を入れていく。そのほかにも「就活支援バス」「学内合同企業セミナー」「OB・OG相談会」など、学生自身が満足できる進路を決定できるようサポートしている。

4 地域で活躍できる人材の育成に向けて

本学はこれまでの人間力教育を発展する形で、昨年度、文科省「地(知)の拠点整備事業(COC)」に採択された。キャンパスと地域を学びのフィールドとした活動を通じて、学生たちは社会人基礎力といったスキルを獲得するだけでなく、地域で起きている問題を「他人事」から「自分事」に変化させ、主体的な学びにつなげたり、専門分野に対する興味や「趣味」の領域から「社会的役割」に変化するなどの効果も出始めている。今後はCOCの取り組みを通じて、諸問題を抱える地域で活躍できる人材の育成に取り組みたいと考えている。